

# 12月学習会のご案内

平成25年11月26日

残すところ本年も残り僅かとなりました。先生方には変わらずお忙しくお過ごしのことと思います。

我が家では、先日、家族総出で（といっても2名+チビ2名ですが）床そうじをしました。学校のそうじはことあるごとにしますが、その分、我が家のそうじはいつも後手にまわってしまいます。ということで、一念発起して（だれが？）ワックス成分の入ったクリーナーで一生懸命ぞうきんがけをしました。ところが、あまりにも汚れが積もっていたからか、なんと、がんばって拭いたのに、まだら模様のフロアになってしまいました。きっと汚れが残っているところとそうではないところに分かれてしまったのだと思います。次回は（いつになるかは分かりませんが）、このまだら模様を解消するという大きなテーマができてしまいました。

さて、12月の学習会では、何ヶ月越しかの「どうぶつのあかちゃん」をテーマとして取り上げる予定です。おもしろみつけでの授業化を考えていきます。11月の学習会は諸般の事情で流会となってしまったので、久しぶりの会です。学期末を迎え、お忙しい折とは存じますが、ぜひ大勢の先生方とお話ができればと思っています。

駐車場及び会場が東山ランチへ変更となっています。お間違いのないようにお越し下さればと思います。12月の学習会もよろしくお祈りします。

日時 平成25年12月14日（土）9:30～12:00  
 場所 岡山大学教育学部附属小学校 教師教育開発センター東山ランチ1F大会議室  
 ※場所がいつもと違います。駐車場の敷地にある建物です。  
 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455  
 連絡先 小出 真規（こいで まさき）TEL 090-5704-7339  
 m-koide@okayama-u.ac.jp（学校パソコン）  
 内容 「どうぶつのあかちゃん」（光村図書1年）  
 おもしろみつけによる授業について

<お知らせ>

※「おもしろみつけ」の本を、附属小でお取り扱いしております！来られ前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。（特価！）多くの方に手にとっていただけるように、みなさん！宣伝活動がんばりましょう！

※ 駐車場について

今後10ヶ月程度、附属小学校では、体育館の建設が行われます。それにともない、駐車場が「教師教育開発センター 東山ランチ」になります。「実践センター」という呼び方がかつてしていたところで、学校の南西にある建物です。よろしくお祈りします。わかりにくいようでしたら、当日朝、小出の携帯にご連絡いただければと思います。



# 10月の学習会の報告

(文責 近藤昌子)

10月の語る会は、小野先生による200回記念講座で発表された「生き物はつながりの中に」(村図書6年)の実践について話し合いました。

## 田中先生より

10月26日は小学校の研究会。追求する喜びを感じる季節。

200回記念をもとに、説明的文章の読みを追求。おもしろ見つけか丸ごと読みかは固まってい。一読で筆者のメッセージの概略をとらえられるかが大切。物語では、読んで作品のイメージがかに感じるものをつかむところから始まるのと似ている。基本は、一読して受け取るものからの授のスタート。それを検証していく中に、他者の読みという共同の読みが入ることで学びが成立するその中でどういう展開が必要か考えていく。

## 赤木先生より

県北での説明文での授業。おもしろ見つけに近い、子どもが見つけて確かめる授業。読みの方策今まで入っていない地域。驚きと、なるほどの両方の感想が聞かれた。200回記念を聞いてやっみたという授業者もいた。あらすじ型ワークシートが説明文の授業と思われていた方にとってはシック。内容を読む必要性が話題になった。語る会の影響を感じた。

作曲家の願いについて、特別企画「岡山から発信する現代の子どもの詩」という子どもの書い詩に作曲家が曲をつけて声楽家が歌うという企画。今の音楽の教科書を見るとリズムに乗って楽し歌うものに比重が高い。言葉を大切に曲とのバランスに戻していきたい。11人の作曲家が12曲作る。

## 田中先生より

子どもの詩を朗読するコンサート。ピアノ曲の間に子どもの詩を朗読することで、詩の輝きを増す。

要約・段落の構成をすることのみの説明文の授業。なぜ要約するのか、なぜ段落わけをすること必要なのか、その先の状況把握が学習者に必要。例えば、教科書編集時に要約を書くスペースがあが、何のために使うかによって何種類もの要約文ができあがる。なぜその何字にまとめるのか、がければ、単にその課題に対応する力がついているだけで、説明的文章を読むという力とはあまり結つかないのではないか。筆者の思い、課題の設定、課題解決、その過程を読むことが要約になってる。学習活動がどこに生きてはたらくかを考えていく必要がある。

## 小野先生の発表

本の形にしていくとすれば、さらなる検証とさらなる実践が必要。今回再度見直す。

単元名 図示したり比べたりしながら、筆者の考えに対する自分の考えを明確にして読もう  
学習材 「生き物はつながりの中に」「感情」(光村図書6年)

### 1 単元目標

- ・「生き物はつながりの中に」「感情」を重ねて読むことを通して、筆者が読者に語りかけてくる書きぶりに応じて自分の考えを明確にし、ものの見方を広げることができる。
- ・「分かった反応」「気付き反応」「比べ反応」「筆者反応」「納得反応」などを使いながら、生き物として生きることのすばらしさや様々な感情の必要感を読み味わい、それに対する自分の考えをもつことができる。

### 2 単元構想(全7時間)

第一次 大きなめあてをつかむ

第1時 「生き物はつながりの中に」を読み、筆者のメッセージに対する感想をもとに学習計画を立てる。

第二次 筆者の考えを読み味わい、自分の考えをもつ

第1時 「分かった反応」「気付き反応」などを使い、「外とのつながり」について確かめる。

第2時 「比べ反応」「筆者反応」などを使い、「一つの個体としてのつながり」について確かめる。

第3時 「比べ反応」「筆者反応」などを使い、「過去の生きものたちとのつながり」について確かめる。

第4時 「筆者反応」「納得反応」などを使い、筆者のメッセージを受けとめ、自分の考えをもつ。

第三次 補助教材の筆者の考えを読み味わい、自分の考えをもつ

第1・2時 「筆者反応」「納得反応」などを使い、筆者のメッセージを受けとめ、自分の考えをもつ。

### 3 指導の実例 省略Q&A

・3次のめあては？

→「多様な感情の大切さを確かめよう」筆者の多様な感情の大切さを子どもが直観したので確かめあてをもってきた。

### 田中先生

4年生までの説明文と違うところとして、筆者の見解が出てくる教材が多く出てくるうちの一つ。なるほどばかりでよいのか、ということへの課題が検討課題。

### 話し合いの結果

#### グループ1

○筆者反応、納得反応について

人間とロボットを比べることはしても、筆者への意識をもたせることは少なかった。筆者反応をるとハートが移動していくなど、手立てのよさに感心した。

○導入の仕方

初めの感想を書くのに比べて、身に付けたい力を鮮明に出すことで、子どもにシャープに伝わり分かりやすい。

○ワークシートについて

切り取った写真や絵を自由に貼るのは初めて。こちらが用意して印刷すると子どものまとめ方もられる。ただ、積み重ねが必要。

○反応

ネーミングはよいが、ないと指標にならないし、人によってとらえ方が違う。

反応はレベルとして手法レベル。手法を意識させるのもよい。

○筆者のハートマーク

子どもは自分が筆者反応をしている、分かった反応をしているということは感じていないのか。反応の違いをハートマークを使うことでうまく位置付けている。

#### グループ2

○ワークシートについて

画像を選び自由度が高い。色分けをして自分の読みの過程がよく分かる。机間指導の時個別にどのような指導をしていたか。

○最後の納得反応

学習材として納得は当然。納得の根拠は、前時までに出してきた分かった反応や比べ反応などが拠になって納得できるかという反応を使って自分の考えが形成できているのがすばらしい。

○感情の第3次

どれくらい反応を自覚して使えるかという時間。自分の経験をもとに考えていた。交流の中で理・納得が深まったのでは。

#### グループ3

○図示

効果的な方法。

#### ○板書

構造的ですばらしい。子どものワークシートのカードの場所と合っているので混乱も少ない。

#### ○ワークシート

犬やロボットのカードをどこに置くか、矢印でどうつなぐか、どう書き込むかそのものに子ども思考が整理される。毎回貼っていくのではなく、同じワークシートを何時も重ねていく、貼り足していくというものがあってもよいのでは。最後には、飛躍やつながりについて批判的な意見も出てくようになるのでは。ウナギの実践で、子どもは飛躍に気付かなかった。別のやり方があったのかもれない。

#### ○批判的に読むことについて

「納得か」と問えば、筆者の考えの飛躍や論のすり替えなどに気付くのであろうが、どう子ども返し、どう子どもに力がつくのかは分からない。

### グループ4

#### ○ワークシートの工夫について

できる子はやりたいようにできる。低位の子に関してはわかりにくいのでは。社会の勉強で資料使っていくことや先生の板書を写しながら考えを使うっていくことができるという考えも。はじめ限定があればどの子もやってみることができると思う。

#### ○板書

多様なワークシートに対応するのは難しいのでは。2つの写真でも十分対比は対応できるのではもちろん小野先生の提案もやってみたい。

#### ○筆者反応の定義

筆者が語りかけることを明らかにするための書くぶりや工夫を筆者反応。納得反応とは違う。

#### ○批判的に問う

批判できる子は少ない。納得について様々な理由を言うことで筆者の意見への納得を深められる。「飛躍しすぎ」と言ってきた場合には、先生にとって納得できることを深められるチャンス。この合は納得が妥当。

### 小野先生

#### ○ワークシートについて

自由度と制約を考えて作った。すぐには書けない子もいる。学習のスタートでは貼られた状態。部フリーではない。最初のやりとりである程度の図示の確認をして一人読みに入るの、子どもにとって無理はない展開。

個別指導の時にも、図示で方向性を示しているの、どんなキーワードを抜き出すかは想定できる赤で何を書いているかを見ていた。そのときの気付きを発表時にいかそうと思って花丸をつけて回っていた。

#### ○板書

子どもがしゃべったことを位置付けていくことは今までと同じ。言葉は多いが、子どもたちと創上げたもの。発言が多いと増える。

### 赤木先生

#### ○ワークシートについて

##### ・社会とのつながり

切ったり貼ったりして自分の考えを作る。附属の子どもに関しては気って貼ることは特別ではない。  
 ・全文提示の書き込み型は広がってきている。書き込み方のよいところはあるが、一方で書き出しつなぐことは自分の思考を書いて確かめ、それをもとに思考することにつながりとてもよい方法。き込み方は苦手な子でもハードルが低い。書き出して整理してつなぐことは、ある程度の思考が必要広まるにはいくつかのステップの提示が必要。はじめからフリーではなく、ある程度の制約から自度が増

えることを教えてもらうことが必要。

#### ○板書

自分のワークシートに写して取り入れることが大切。よいと思ったものを持ち込んで書き込むことも必要。

#### ○書き手の見解への納得に関して

「円柱形」の方がつまみやすいが、他の教材はほとんどが納得できるもの。この授業の作り方ならば、こんな風に納得したという納得の仕方を自分の言葉で表現するあたりが小学生がするリテラーと考えられる。はじめ最終段落が大切と気付いているが、読むことで他のつながりが分かってきて中身のつまんだ納得になっていっていることを自分で自覚できる。ただそれはリテラシーか学習の果の確認かはまだはっきりしない。

説明文ならではの初発の感想のたせ方のよさ。構文に沿って書くと概略がつかめる。最後に何伝えようとしているのかと考えたとき、初めの感想と比べて中身が詰まっているのが自分でも分かり自覚できるようにすると、学習の成果を確かめられるとともに自分の見通しが間違っていなかったと確かめられる。

#### ○岡山の学力

長文が読めない。概略をつかむのも大切な力。それを学習する機会も必要。書毒の段階でつかみ丁寧の中身を読むとそのつながりが納得できることは大切。

### 田中先生

#### ○書き出し方

しなさいではできない。

物語の長文で全文提示ができないときへの提案。西郷さんの使われている手法として、見開きで度に見ることができるような作品のとき丸ごと読みでやっていることが有効。それに対して文章がくても必要ではという発想。教科書よりも大きくして提示してきたが、日常はページをめくる。通は書き出して図式化する事も多い。それは物語の時も出てきていた。

すぐに構造化はできないが、そこを育てていくことは必要で、「書くこと」の教育でも取り上げてた。書くことの社会的機能（伝達）の中の個人的機能は、自分の認識思考の過程で用いる機能。取出し指導は難しい。読む時に使っていく。今回のワークシートは自分で書くことを使っている状況書くことが読むことの中で使われ育てられている。

学習者の能力の問題は深刻。具体的な手立てを打たなければ、できる子が半分いればよいと言うのではない。アイデアを共有していく。

#### ○板書

小野先生は達人。文字数は多いが構造化が明確。学習者が受けとめられればよい。同じものを書いてよいわけではなく、学級によって取り上げられるものは変わる。自分ができる構造化をしていくことが大切。ここまではできなくてもアプローチをしていくことが大切。

#### ○筆者反応、納得反応

○○反応はとりあえずの用語。筆者反応は筆者の意図を理解した反応。納得反応は筆者の主張にする納得の反応。6年生では批判的思考、評価が必要では？ということについて、先生レベルで気かなければ必要ない。この教材では突っ込みどころはある。2段落で、外部のものを取り入れてい所の共通性は分かるが、エネルギーだけいえば、ロボットと人間は変わらない部分がある。人間はてくるものはいらなくなった細胞が中心。細胞は交代されている。比較の不十分さがある。気付かなくてもよいし、円柱形ほど不足があるのとは事情が違うが、ないことはない。

高学年では筆者の意図に対する納得の部分を出す展開が大切。「この筆者が言っている」を意識することで、別の筆者なら、この立場なら、ということへ発展していく。

○ワークシートのシールを使って自由度を高めたところは大変提案性がある。